

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌南陵高等学校長 小 川 政 博 印

次のとおり令和 6 年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- 自立と共生の精神を培い、「生き抜く力」を涵養することを目指す
- (1) 基本的生活習慣を身に付け、思いやりを持った明るく礼儀正しい生徒を育てる（挨拶と掃除）
 - (2) 生徒の学習実態を的確に把握し、学力伸長の取り組みを進める（確かな学力）
 - (3) 生徒が進路活動について、主体的・協働的に取り組み社会人として自立できるようにする（親身な進路指導）
 - (4) 自他の生命・人権を尊重し、いじめを予防する取組を進める（優しさと思いやり）

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	・「南陵いのちの授業」を実施し、生徒へ自他の生命を尊重する姿勢を身に付けた。 ・コロナ禍では疎遠になっていた P T A 活動を復活させ、学校祭でカレーを作り生徒へ振る舞った。また、地域との連携を深め、探究学習でお年寄りと、祭りやボランティアなど、藤野地区の住民との交流を深めた。 ・若手教員の育成のためのプロジェクトを実施し、共に学び合う環境づくりを心がけた。	・「南陵いのちの授業」を地域の方々にも案内したことは、大変よい取組である。 ・コロナ禍では自粛していた、地域や保護者との交流を行えたことは次年度の足がかりとなる。 ・若手教員育成を学校全体で行ってる取組はとて素晴らしい。 ・校長なんでも相談室の活用でいじめ防止のためのアンテナとしても役割を果たしている。
改善方策	地域と密接に結びついた教育活動の積極的な推進を行う。	
学習指導	・確かな学力を身に付けるため ICT 機器を活用した教育活動の充実に向け校内研修を行った。（文部科学省 C B T システム「メグビット」やクラッシーの推進） ・個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善に努めた。 ・道内外の教育団体等への視察後、全職員で情報を共有した。	・求められる資質、能力を確実に育成するための「学び」の授業改善に取り組んでいた。 ・一人一台端末による効果的な授業実践を促進している。 ・時代や本校生徒に即した、今後も学び合う教員集団であり続けてほしい。
改善方策	各教科、授業公開を行い、近隣の中学校の教員や保護者に案内する。I C T を活用した授業実践の交流を持続する。	
生徒指導	・迅速かつ丁寧に対応することができる学校の組織的な危機管理体制の強化に努めた。 ・朝の玄関指導、S H R の頭髪、服装の指導、全体的な生徒の声がけにより、基本的生活習慣を身に付けることができた。 ・スクールカウンセラーの活用により「いじめ予防のための組織的対応」の研修を行った。	・危機管理に対する学校の組織的な対応の強化に向けて取り組んでいる。 ・「いじめ防止」に向けて学校全体で取り組んでる。 ・生徒からの S O S をキャッチし、未然防止に努めている。 ・生徒たちの住民に対しての挨拶はとても好感が持てる。
改善方策	今後、より一層の個人面談・教育相談・特別支援教育の充実を図り、安全・安心な学校づくりを行う。	
進路指導	・地域と連携した、インターンシップを充実させ個々の進路実現につなげる取組ができた。 ・藤野地区の課題（お年寄りとの交流）を探究活動に生かした。	・学校、家庭、地域と連携したキャリア教育の推進を期待する。 ・今後、探究の時間の成果発表を地域の人に公開させてもよいのではないかな。 ・今後も生徒の主体的進路決定能力の育成をお願いしたい。
改善方策	「総合的な探究の時間」を軸にキャリア教育の充実を図りたい。	
特別活動	・各種の行事をとおして、生徒の自主的・実践的な態度を育成した。 ・部活動、行事の活性化、精選に向けて取り組んだ。	・コロナ禍で難しかった異校種との交流が進んだ。 ・部活動の活性化に向けた取組を今後も期待する。
改善方策	地域の特性や、教育資源を生かしたキャリア教育や他校種との連携による教育活動を推進する。	
公表方法	学校評価の結果について、本校ホームページに掲載する。	

3 添付資料

○令和 6 年度学校評価アンケート集計結果（生徒・保護者・教員）